

オペレーション・ブlessing・ジャパンは、米国バージニア州国際NGO Operation Blessing International(OBI)と連携し、イエス・キリストの精神に基づき国内外で活動している団体です。OBIは、深刻な状況下で苦しんでいる人たちに救いの手をさしのべるため1978年に設立、世界90の国や地域において実践的な活動を繰り広げています。

ソーシャル・アクション・プロジェクト P1

若者たちと築く“つながり”というセーフティネット

復興コミュニティ支援 P2

南相馬で育まれる“心の復興”
熱海市「子どもたちの居場所づくり」

こころの支援 P3

能登半島災害支援
こころの支援プロジェクト

全国で広がるOBJの支援 P4

2024年クリスマス・ギビング
今夏～秋活動報告一覧



体育館でトータルフィットネス(※1)に挑戦

ソーシャル・アクション・プロジェクト 若者たちと築く“つながり”という セーフティネット

東日本大震災や能登半島地震の経験を通して、私たちは地域のセーフティネットが届かない人々の現実を目の当たりにしてきました。困っているのに助けを求められない人、声をあげられないまま孤立していく人——こうした人々に平時からつながることを目的として、地域の社会課題解決に取り組むソーシャル・アクション・プロジェクトを日本各地で進めています。

その一つが、養護施設や里親家庭で育ち、18歳で制度を離れる若者たちへの支援です。こども家庭庁によると、家庭で暮らすことが難しいなどの理由で、社会的擁護のもとで生活している子どもは全国で4万2000人(※2)。その多くは児童擁護施設や里親家庭などで育ち、多くの場合18歳になると進学や就職の機に自立を迎えます。しかし、社会に出たあと相談できる大人が限られ、孤立や不安を抱えやすい現実があります。

見えにくい場所で、災害時にはさらに大きなリスクを抱える——それが、彼らのもう一つの現実です。私たちは、平時から彼らと関わり、信頼関係を築くことで、いざという時に迅速な支援が届く“関係のセーフティネット”を築いています。

運動やBBQ等、日常の交流を通して信頼を育む

実の親に受け入れてもらえず、安心できる場所を見つけれないまま成長する若者もいます。



BBQ等の活動を通して交流

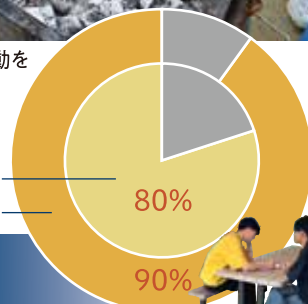
また、育つ環境が何度も変わった経験から、社会に対して諦めを抱くようになる子もいます。それでも、継続的な関わりの中で少しずつ心を開く若者が増えています。

さらに、「自分も誰かを支えた」と語る青年もできました。こうした取り組みが、“人と人との信頼”という形で実を結び始めています。この取り組みは私たちだけでは成し遂げられません。

あなたの応援、寄付が、若者たちの心を支え、孤立を防ぐ新しいセーフティネットを築く力となっています。どうか人と人が、心を寄せて助け合う未来を共につくる仲間となってください。

※1 体を動かしながら心をほぐし、仲間と気持ちを分かち合うプログラム。笑顔と対話を通して関係が深まります。
※2 こども家庭庁「資料集「社会的養育の推進にむけて(令和7年4月)」」

信頼できる大人ができた
自分のことを大切に思ってくれる人がある



9月に実施した中間アンケートでは、参加した若者の80%以上が「信頼できる大人ができた」と答え、90%が「自分のことを大切に思ってくれている人がある」と感じるようになったと回答しました。

見えないSOSに伝えて—— 南相馬で育まれる“心の復興”



レスを抱える子どもたち。そんな子どもたちに、心の安らぎを取り戻してもらおうと、2014年に「あとりえほーぷ」を開始しました。

その活動は2017年、復興コミュニティスペース「ブレッシング・ルーム」へと広がり、放課後の居場所「ブレッシング・クラブ」が誕生。子どもたちは宿題をしたり、遊んだり、安心できる第3の居場所を自分らしさを伸ばしています。



サマーキャンプで山登り

11年目を迎えた サマーキャンプ

放射線を気にせず思い切り遊べるようにと始まったサマーキャンプ。今年は山形県でハイキングを実施しました。

「僕は2000m級の山に登ったんだ！」と山頂で誇らしげに話す男の子。「カメラを持ってくればよかったな、この景色をお母さんにも見せたかった」と笑顔で語る姿に、子どもらしい素直さと喜びがあふれていました。たくさんの体験を通して、子どもたちは友達と協力し合い、自信を育んでいます。

こうした子どもたちの笑顔は、家族の心を、そして地域をも少しずつ明るくしています。

「子どもが元気でいてくれるだけで、自分も前を向ける」と話す保護者の言葉がその証です。心の復興は今も続いています。



熱海市土石流災害 復興コミュニティ支援

子どもたちの心に 寄り添う居場所づくり



2021年7月3日、熱海市伊豆山を襲った土石流は、家々をのみ込み町の姿を一変させました。地域全体が混乱する中、子どもたちの心にも深い不安と緊張が生まれていました。遊び場は流され、通う学校が変わり、友達と遊ぶ姿は町から消えていったのです。「周りを困らせたくない」「我慢しなきゃ」と心に蓋をして笑顔をつくる子どもたち。未就学児の男の子が夜中に歯ぎしりをするようになった——それは、言葉にできない不安と緊張を小さな身体が訴えるサインでした。

翌月、町からの要請を受け、私たちは子どもたちの居場所づくりをスタートしました。あえて決まったプログラムは設けず、子どもたちが自由に過ごし、自分の感情や存在を否定されることなく安心できる場所です。「ありのままを受け止めよう」と心を込めて接するうち、乱暴な言動の奥にある不安や悲しみが少しずつ言葉になり、笑顔が戻ってきました。二組の親子から始まった小さな集ま

りは少しずつ増え、今では30人を超える小中学生が集う場所に。子どもたちの心の拠り所となっています。

4年目を迎えた今年の夏。プールイベントには中学生を含む多くの子どもたちが参加し、公民館には笑い声が響きました。「子どもたちの笑顔が戻ってきてうれしい」「ここがあって本当に良かった」「助かったのは子どもたちだけでなく、私たち大人もです」と、地域の方々からも喜びの声が寄せられています。

皆さまのご支援に心より感謝いたします。

災害はいつ起こるかわかりません。けれど、普段から人と人がつながり、安心できる居場所があること——それが、子どもたちの心と地域のレジリエンスを育てる力になります。子どもたちが再び笑顔を取り戻すために。そして、未来のどんな困難にも負けない地域をつくるために。これからもあたたかな応援とご支援をよろしくお願いいたします。

子どもたちの笑顔が戻る― 被災地で続く心のケアプログラム

能登半島地震の被災地では、
今も生活再建の途上にある家庭
が多く、子どもたちの心にも長
い影響が残っています。

OBJでは、そうした子ども
たちの心の回復を目的に、今年
度3回の心のケアプログラムを予
定しています(※3)。

その一環として、9月には穴水
町立向洋小学校併設の学童「こ
うようクラブ」で、東京からクリ

※3 本プログラムは、ジャパン・プラットフォーム
(JPF)の助成を受けて実施しています。



ニクラウン(※4)のピエロのようへ

いくんを招き、子どもたちのた
めのパフォーマンスを行いました。

昨年に続いて2回目の開催と

なった今回は、高学年の子ども

たちも参加し、登録児童27名全

員がそろそろ賑やかな時間となり

ました。

ようへいくんの軽やかな動き

やユーモラスな表情に、子どもた

ちは大笑い。声をあげて笑い、手

拍子をしながら一緒に参加する

姿に、会場全体が明るさに包ま

れました。

学童会長の泊(とまり)さんか

らも「子どもたちのテンションがい

つもより高く、本当に喜んでいま

した」との声が寄せられました。

地域の大人の一人はこう話します。

「子どもたちが心から笑ってい

る時、震災がもたらした苦しみ

から少しずつ解き放たれていく

ように感じます。この積み重ね

が、心の重荷を和らげていくの

だと思っています。」



ピエロのようへいくんの遊びにはしゃぐ子どもたち

笑いは、心の緊張をほぐし、人
と人をつなぐ力を持っています。

OBJはこれからも、被災地の

子どもたちが安心して笑い合え

る時間を届けていきます。

今年12月にはクリスマスプレゼ

ントを持って子どもたちを訪問

し、また来春には再びピエロのよ

うへいくんを招く予定です。

※4 クリニクラウン…病院クリニックを訪問する
道化師(クラウン)のこと。

入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪れ、遊
びやコミュニケーションを通して心の成長を支え
ています。

(出典…認定NPO法人 日本クリニクラウン協会
公式サイト)



理解と実践の輪を広げて―

OBJでは、誰もが安心して「心の健康」について学び合えるよう、
心理・教育分野の専門家を招いた講演会やセミナーを定期的に開催しています。

7月には、臨床心理士・行動分析学者の奥田健次氏を講師に迎え、「行動
分析学から見る子どもの理解と支援」をテーマとした講演会を御茶ノ水クリ
スチャンセンターで開催しました。

実例を交えた分かりやすい解説とユーモアあふれる語り口に、会場ではた
びたび笑いが起こり、和やかな雰囲気の中にも多くの学びがありました。
当日の参加者は212名。終了後のアンケートでは、99%が「役に立った」
「満足した」と回答。「具体的なエピソードを聞くことで、特別支援学校での
実践に活かせそうです」「不登校ゼロの取り組みを通して、子どもたちへの見
方が変わりました」といった声が寄せられました。

こころの支援を日常へ

さらに9月から11月にかけては、専門資格を持つOBJスタッフによる“アン
ガーマネジメント”や“発達障害セミナー”を開催。支援現場での経験に基づい
た内容は、参加者にとってよりリアルな状況をイメージしやすく、日常の中で
こころの支援をどう実践できるかを考えるきっかけとなりました。

OBJはこれからも、専門的な知見を社会に広げ、人と人が理解し合い、
支え合うこころの輪を育てていきます。

2024年度
の様子

つながりが灯す、希望のリレー クリスマス・ギビング 2024

昨年のクリスマス、全国各地で生まれた“つながりの奇跡”。
その温かな出会いが、今も希望の灯となって輝き続けています。

小さな贈り物が、人と人をつなぐ
“あたたかなきかけ”になりました。

山口県・岩国市

近くに住む一人暮らしの女性。これまでイベントにお誘いしてもなかなか関わりが持てませんでしたが、今回クリスマスプレゼントをお届けしたところ、家に招き入れてくださり、ゆっくりお話ができました。話していくうちに、共通の知り合いがいることがわかり、驚きと喜びで心が温まりました。



小さな訪問が、孤独をやわらげる
時間となりました。

福島県・南相馬市

「兄弟や友人が次々に亡くなり、自分だけが取り残されたようだ」と語る高齢の女性。足腰が不自由で外出も難しい中、クリスマスプレゼントをお届けすると「顔を見せてくれるだけでうれしい」と笑顔を浮かべられました。



継続的な支援が、日々の励ましに
なっています。

静岡県・熱海市伊豆山

私たちの訪問をいつも楽しみにしてくださっている女性の笑顔に、今年も出会いました。クリスマスプレゼントをお渡しすると、お米はとても嬉しいと喜ばれ、毎年贈るオーナメントも、クリスマスになると玄関へ並べて飾ってくださっています。



「誰かが自分たちを思ってくれている」
その温もりが前を向く力となりました。

石川県・能登半島

地震から1年を迎える能登半島。アメリカ・オレゴンからきたチームと一緒に仮設住宅を周りクリスマスプレゼントをお届けしました。皆さんとても喜ばれ、笑顔があふれる時となりました。



顔を合わせ、心を交わす“つながり”こそが、いざというときの支えになります。今年も【クリスマス・ギビング】を実施します。あなたも誰かの心に灯をともし一人になりませんか？詳細は別紙をご覧ください。

全国で広がる

OBJの支援

この夏から秋にかけての活動を紹介します

OBJは全国各地で、子どもや地域を支え、心と生活に寄り添う活動を行っています。こうした日常のつながりが、いざという時の災害対応や地域で支え合う力を築く大切な土台となります。



各地の活動の詳細はこちら



子ども・地域を支える

子ども支援

災害後も、子どもと家族が安心して過ごせる場を続けています。

南相馬

- 放課後児童クラブ「ブレスリング・クラブ」
- 地域コミュニティ拠点「ブレスリング・ルーム」
南相馬初のゴスペルクワイア「RISE UP」10周年！
- キッズサマーキャンプ

熱海

- キッズクラブ夏イベント
- 高齢者の戸別訪問



被災地とともに歩む

災害支援

現地のニーズに耳を傾け、物資支援と心のケアを続けています。

能登半島

- 物資支援と心のケアを継続中。
- 現場の経験をもとに、心理臨床学会で支援の調査結果を発表しました。



心を支える

こころの支援

心のケアを学びながら、互いに支え合う輪を広げています。

- オンライン勉強会「発達障害について学ぼう」
- アンガーマネジメント勉強会
- カウンセリング「OBJこころの相談室」
- 奥田健次先生講演「ぶれない子育て ゆるがない歩み」

仙台から全国各地へ
フードトラック
炊き出しプロジェクトが始動！



つながりをつくる

生活困窮支援

地域の課題に向き合い、誰も取り残さない支援を広げています。



- 仙台 若者支援 名古屋 生活困窮支援 東京 外国人支援
福島県浪江町 帰還者支援 静岡県焼津市 親子支援「やすらぎカフェ」
- ソーシャル・アクション・プロジェクト 5拠点で始動
 - フードバンク
 - 炊き出し支援「青空会」